

13:11 一人の年老いた預言者がベテルに住んでいた。その息子たちが来て、その日、ベテルで神の人がしたことを残らず彼に話した。また、彼らは、この人が王に告げたことばも父に話した。

13:12 すると父は「その人はどの道を行ったか」と彼らに尋ねた。息子たちは、ユダから来た神の人が行った道を知っていた。

13:13 父は息子たちに「ろばに鞍を置いてくれ」と言った。彼らがろばに鞍を置くと、父はろばに乗り、

13:14 神の人の後を追って行った。そして、その人が檜の木の下に座っているのを見つけると、「ユダからおいでになった神の人はあなたですか」と尋ねた。その人は「私です」と答えた。

13:15 彼はその人に「私と一緒に家に来て、パンを食べてください」と言った。

13:16 するとその人は言った。「私は、あなたと一緒に引き返して、あなたと一緒に行くことはできません。また、この場所では、あなたと一緒にパンも食べず、水も飲みません。

13:17 というのは、私は【主】のことばによって、『そこではパンを食べてはならない。水も飲んではいけません。もと来た道を通って帰ってはならない』と言われているからです。」

13:18 彼はその人に言った。「私もあなたと同じく預言者です。御使いが【主】のことばを受けて、私に『その人をあなたの家に連れ帰り、パンを食べさせ、水を飲ませよ』と告げました。」こうして彼はその人をだました。

13:19 そこで、その人は彼と一緒に帰り、

彼の家でパンを食べ、水を飲んだ。

13:20 彼らが食卓に着いていたとき、その人を連れ戻した預言者に【主】のことばがあったので、

13:21 彼は、ユダから来た神の人に呼びかけて言った。「【主】はこう言われる。『あなたは【主】のことばに背き、あなたの神、【主】が命じた命令を守らず、

13:22 引き返して、主があなたに、パンを食べるべきではない、水も飲んではいけませんと言った場所でパンを食べ、水を飲んだので、あなたの亡骸は、あなたの先祖の墓には入らない。』」

13:23 彼はパンを食べ、水を飲んだ後、彼が連れ帰った預言者のために、ろばに鞍を置いた。

13:24 その人が出て行くと、獅子が道でその人に会い、その人を殺した。死体は道に放り出され、ろばは、そのそばに立っていた。獅子も死体のそばに立っていた。

10節までの「神の人」はすばらしい預言者でしたが、ここで彼は失敗を犯します。偽物とも思えるような預言者が彼を「だまし」て、神様の命令に背かせ、この「神の人」は獅子に殺されたのです。

彼にどんな落ち度があったのでしょうか。神様が「そこではパンを食べてはならない」と命じられたのには理由があります。彼はヤロブアムとイスラエルの反逆を厳然と非難しなくてはなりませんでしたが、この地で誰かと食事をすることとは親しい交わりをすることを意味します。そこからこの「神の人」の預言活動が、妥協的なものになってゆくことを神様は見抜いておられたのです。妥協は偶像礼拝の入り口です。

またこの「年寄りの預言者」は、ヤロブアムの反逆にも意義を唱えることなく、保身のためか預

言者として王の罪を容認していました。彼は自分のために「神の人」から、今後の身の振り方のために情報を得たのだと思われる。そのような人とまるで一致しているかのような言動は、真の預言者としては許されないことだったので。

皮肉にも「年寄りの預言者」が本当に預言したのは、「神の人」のさばかれることでした。ここに神様の主権が表されます。

最後まで主に従いましょう。人間関係の妥協よりもみこころを選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

